FISHING イチバン | Fishingエイト グループ
「関西のつり」6月号に掲載されました。
Sports Fishing Shop

午前中は小マサが活発に食ってきた。やっぱりポイントはテトラ寄り。

〈福井県〉若狭大島・大飯発電所排水口筏

磯タックルで筏からグレ釣り!!

私たちが上がった筏から西側の筏を見る。

福井県若狭大島の福島渡船の若船長、雄一氏がジギング船を始めたと聞いた。それで釣りの話を電話でしていたところ、筏からグレが好調に釣れているという。これはとてもおもしろそうだ。それでフィッシングイチバンの八尾高広氏と迫田重範氏を誘ったところ…

カメラ／文　松井謙二

新しいジギング船で福島渡船の若船長の福島雄一氏と。

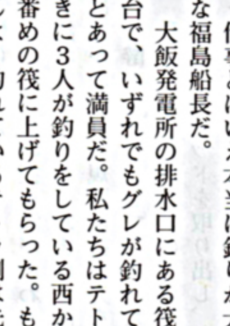
「ええ!! 高広君の家、うちの家からそんなに近いの？ 歩いて5分ぐらいやで!!」
「迫田店長も宝塚に住んでいるんですよ!!」
「そうか!! 家が近かったら釣りに行くのも楽やから3人で釣りに行こか？」
釣り具の購入時によく行く池田の「フィッシングイチバン」の八尾高広君と今年1月に釣行の約束をした。そして4月に入って本誌6月号の取材先を考えていたところ、福井県若狭大島の「福島渡船」の若船長、雄一氏がジギング船を始めたと聞いた。それで釣りの話を電話でしていたところ、筏からグレが好調に釣れているという。そんなことからフィッシングイチバンの八尾高広君と迫田重範君を誘ったのだった。
若船長の話では、磯のグレタックルで筏から40セン前後のグレが釣れるが、潮がかなり速いので5B～2号ぐらいのウキがいるとのことだ。餌は沖アミとアオイソメを用意。さらに小マサとヒラスズキも釣れている

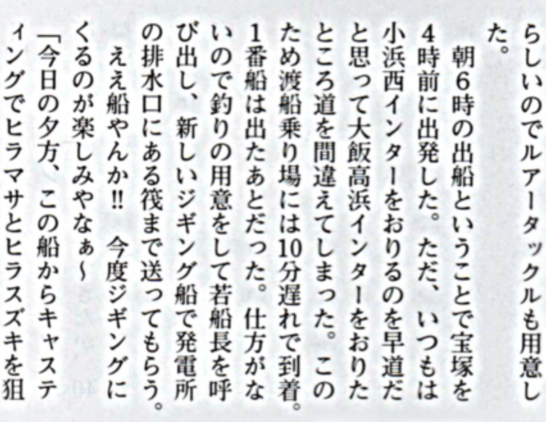
風のまにまに 251

酔ってダウンしていた八尾高広君がグレを掛けた。

私たちが上がった筏から東側の筏を見る。発電所の排水の強さや潮の流れでポイントは次々とかわる。

らしいのでルアータックルも用意した。
朝6時の出船ということで宝塚を4時前に出発した。ただ、いつもは小浜西インターをおりるのを早道だと思って大飯高浜インターをおりたところ道を間違えてしまった。このため渡船乗り場には10分遅れで到着。1番船は出たあとだった。仕方がないので釣りの用意をして若船長を呼び出し、新しいジギング船で発電所の排水口にある筏まで送ってもらう。
ええ船やんか!! 今度ジギングにくるのが楽しみやなぁ～
「今日の夕方、この船からキャスティングでヒラマサとヒラスズキを狙いましょう!!」
仕事とはいえ本当に釣りが大好きな福島船長だ。
大飯発電所の排水口にある筏は7台で、いずれでもグレが釣れているとあって満員だ。私たちはテトラ向きに3人が釣りをしている西から3番めの筏に上げてもらった。もちろんよく釣れているテトラ側は先客が竿を出しているので私たちは反対側の沖向きに入った。
撒き餌を作ったあと、5Bのウキ、4Bのオモリ 2号ハリスを竿1本取った間にBのオモリという仕掛けとした。そして沖アミを餌に釣り始めたが、沖向きの潮が速くて釣りにならない。それで私は筏の東側からテトラ方向に仕掛けを遠投してみる。しかし、先客の仕掛けがかぶってくるのでかなり釣りづらい。それに私が竿を出している東側は、排水口から出る潮の流れが底からわいてきてカガミになっている。このため仕掛けがまったく落ち着いてくれない。それで仕方なく反対側の沖向きに仕掛けを流すと、ボラがたまにヒット


小さくてもこんなに肥えている。


「ヒラマサは小さくても本当によく引きますね!!」と迫田君。

するぐらいである。
私たちとは逆にテトラ側にいる人たちは頻繁に竿を曲げている。特に私の正面になる東側の筏は絶好調で、35～40チセンのグレを次々と掛けて竿をしならせている。今日はその筏の潮の流れがよほどいいのか 東向き、西向きに入っている釣り人も良型のグレを釣っている。私たちの筏もそれほどではないが テトラ側に入った人はグレに小マサをときおり掛けて竿を大きく曲げている。
「あ～、ここの釣り場も釣り座で釣果が決まるのか？ と思っていると、テトラ側の人が「私たちは昼の船で上がるから…」といってくれたので少し希望が出てきた。
正午過ぎに迎えの船がやってきた。

小マサが活発にジグを追ってきた。

夕方にグレが連発で!!
やっぱりテトラ向きはよく釣れる。

私にきた43チセンのイシダイ。メチャうれしかった!!

久々のチヌの美しさに見とれてしまう。

どんな魚種でも餌が豊富なため丸々と肥えている。

イシダイの次は同じポイントでチヌが釣れた。

先客に礼をいって私たち3人はテトラ側に入った。
しかし、どの筏も潮がかわったのか釣れなくなった。おまけに高広君は筏がかなり不規則な揺れ方をするので酔ってダウンしてしまった。
私はグレが釣れないので磯竿を置いてルアーロッドを取り出し、ジグを結んでテトラ向きにキャスト。そしてジグをジャークすると「ガツン!!」と小マサがヒットした。
私の投げたジグを何度か小マサが筏の真下まで追いかけてきたが、40チセン級ばかりである。ここのヒラマサは釣り人が撒く沖アミにもアオイソメにも食ってくるが、ルアーにも反応がいい。ブリは沖アミについてしまうとルアーに反応しないことが多いが…。
その後、福島船長のお父さんがやってきて「あまり釣れていないのなら上手な人がいるから教えてもらい!!」と、西側の筏に上がっていた常連さんの柳瀬さんを私たちのいる筏に上げてくれた。
「今日はこっちの筏は食いがわる

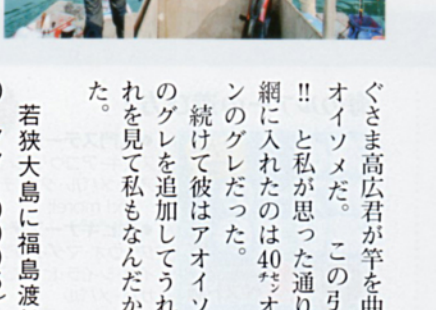
風のまにまに 251

〈福井県〉若狭大島・大飯発電所排水口筏

いでしょ!! 竿1本ぐらいのウキ下でテトラの際から5メートルぐらいまでを流して下さい!!」と柳瀬さん。
ウキは東側から西に流れていくのだが 正面より少し右側で動きが止まる場所がある。そこで道糸を張り気味にしてじ～っとアタリを待っていると、フワフワフワ～とゆっくりとウキが沈んでいった。
竿を立てるとドスン!! といった感じでグイグイと力強く底へと走っていく。グレなら40チセンは越えているだろう。ゆっくりと引きを楽しませてくれたあとに水面に現われたのは、7本縞の美しい40チセンオーバーのイシダイだった。こいつは大歓迎である。
次も私のウキはイシダイを掛けた場所で止まったあと、グ～ンと力強く入っていった。「今度はグレ？」と思っていると、30チセンを越えた美しいチヌだった。
グレも30チセン級だが1匹釣り上げた。迫田君はヒラマサやグレを掛けて楽しんでいる。
そんなとき高広君が眠りから覚めたので「私は満足したからここでやって!!」と場所を譲った。するとす

筏から磯のタックルでこのサイズが釣れるのだからたまりません。

小マサとファイト中の迫田店長。


この日はテトラから10メートル以内でグレが食ってきた。

ぐさま高広君が竿を曲げた。餌はアオイソメだ。この引きはグレやろ!!と私が思った通り、高広君が玉網に入れたのは40チセンオーバー 腹パンのグレだった。
続けて彼はアオイソメの餌で同級のグレを追加してうれしそうだ。それを見て私もなんだかうれしくなった。

若狭大島に福島渡船 ☎0770（77）0095）他がある。

40チセン近い良型だった。

私たちに釣り方を教えてくれた常連の柳瀬さん。